

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題 - エリア ID の不一致](#)

[解決策](#)

[問題 - チェックサムが正しくない](#)

[解決策](#)

[問題 - OSPF が受信側インターフェイスで有効になっていない](#)

[解決策](#)

[問題 - バグ CSCdr48014 により、受信側インターフェイスで OSPF が有効にならない](#)

[解決策](#)

[%%OSPF-5-ADJCHG: Process ID , Nbr \[ip-address\] on GigabitEthernet 1/0/3 from FULL to DOWN](#)

[関連情報](#)

概要

「%OSPF-4-ERRRCV」エラーメッセージは、Open Shortest Path First (OSPF) ルータが無効な OSPF パケットを受信したという意味です。考えられる原因には次のものがあります。

- [エリア ID の不一致](#)
- [チェックサムが正しくない](#)
- [受信側インターフェイスで OSPF が有効でない](#)
- [バグ CSCdr48014 により、受信側インターフェイスで OSPF が有効にならない](#)
- バージョンが正しくない
- タイプが無効である
- リンクステートアップデートアダバタイズメント カウントが正しくない
- リンクステートアップデートの長さが正しくない

リストの最初の 3 つの項目は、「%OSPF-4-ERRRCV」エラーメッセージの代表的な原因であるため、以下で詳しく説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではあ

りません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

問題 - エリア ID の不一致

このメッセージを生成したルータは、近隣ルータの 170.170.3.3 からイーサネット 0 上に無効な OSPF パケットを受信しています。パケットが無効なのは、パケットのエリア ID がエリア 0 (バックボーン エリア) であるためです。これは、受信側ルータのイーサネット 0 インターフェイスがエリア 0 にないことを意味します。エリア 0 にインターフェイスがある隣接ルータのコンソール ログには、このメッセージが表示されないことに注意してください。このエラーメッセージを生成するのは、エリア 0 以外のエリアにインターフェイスがあるルータに限られます。

解決策

このメッセージの生成を防止するには、ルータ設定の OSPF の下の network 文をチェックして、両側のエリア ID が同じであることを確認します。たとえば、2 台のルータ間のリンク 10.10.10.0/24 がエリア 1 にある場合、両方のルータの network 文でこのリンクがエリア 1 に含まれていることを確認します。両方のルータの network コマンドは以下のようになります：

問題 - チェックサムが正しくない

このメッセージを生成したルータは、近隣ルータの 144.100.21.141 からトークンリング 0/0 上に無効な OSPF パケットを受信しました。パケットが無効なのは、OSPF チェックサムが正しくないためです。チェックサムが正しくない原因を特定することは容易ではありません。次に、考えられる問題の原因をいくつか示します。

- 隣接ルータ間のデバイス (スイッチなど) によって、パケットが破損した。
- 送信側ルータのパケットが無効である。この場合は、送信側ルータのインターフェイスに不具合があるか、ソフトウェアのバグによってエラーが発生したかのどちらかです。
- 受信側ルータが誤ったチェックサムを計算した。この場合は、受信側ルータのインターフェイスに不具合があるか、またはソフトウェアのバグによってエラーが発生したかのどちらかです。これは、エラーメッセージの原因としては最も考えにくいものです。

解決策

この問題のトラブルシューティングは容易ではありませんが、最初に次の解決策を試すことができます。Cisco では、この解決策が問題の 90 パーセントに有効であることを確認しています。次の手順は、この順番通りに行うことが重要です。

1. ルータ間のケーブルを交換します。上の例では、不良パケットを送信したルータ (144.100.21.141) と、不良パケットについてエラーメッセージを生成したルータを結ぶケーブルです。
2. 上記の手順で問題が解決しなければ、ルータ間のスイッチにある別のポートを使用します。
3. 上記の手順で問題が解決しなければ、クロス ケーブルを使用してルータを直接接続します (物理的な場所で直接接続が可能な場合)。それ以上メッセージを受信しない場合、スイ

ッチがパケットを破損していると考えられます。上記のいずれの解決策によっても問題が解決しない場合は、[シスコのテクニカル サポート](#)に連絡し、エンジニアと協力して Cisco IOS® ソフトウェアのバグを見つけるか、返品許可 (RMA) が適用される場合は、パーツの一部またはすべてを交換してください。

問題 - OSPF が受信側インターフェイスで有効になっていない

このメッセージを生成したルータは、シリアル 0.100 に 141.108.16.4 からパケットを受信しましたが、OSPF がシリアル 0.100 インターフェイスで有効になっていません。このメッセージは、OSPF 以外のインターフェイスについて一度だけ生成されます。

解決策

この問題は、ルータではほとんど発生しません。この問題を解決するには、インターフェイスで OSPF が有効になっていることを確認します。ルータ設定で network 文を入力し直します。OSPF がインターフェイスで有効になっているかどうかを上の方法で確認する場合は、次のコマンドを入力します。

```
R1#show ip ospf interface serial0.100
```

OSPF が有効になっていない場合は、コマンド出力には何も表示されないか、または「OSPF is not enabled on the interface.」と表示されます。

問題 - バグ CSCdr48014 により、受信側インターフェイスで OSPF が有効にならない

OSPF、MPLS、CEF で構成された Cisco 7500 シリーズ ルータで OSPF アップデートが破損している可能性があります。IP ルーティング テーブルから IP ルートが一時的に削除され、接続が喪失する場合があります。これは、Cisco Bug ID [CSCdr48014](#) ([登録ユーザ専用](#)) が原因で発生します。

解決策

Cisco IOS を最新の IOS リリースにアップグレードします。

%%OSPF-5-ADJCHG: Process ID , Nbr [ip-address] on GigabitEthernet 1/0/3 from FULL to DOWN

エラー %OSPF-5-ADJCHG: 「Process ID , Nbr [ip-address] on GigabitEthernet 1/0/3 from FULL to DOWN is 」は、双方向フォワーディング検出 (BFD) エラーによって発生します。BFD は、リンク障害が存在していなくても、誤ってリンク障害アラーム信号を生成することがあります。

BFD に使用されるタイマーが極めて集中的な CPU サイクルであるか、または、短期間のデータ破損またはキュー輻輳によって BFD が検出タイマーを満了させるのに十分な制御パケットを取得できなかった可能性があります。最小送信間隔、最小受信間隔、および係数を、それぞれ 100、100、3 に設定することをお勧めします。予期せずに CPU が使用不可にならないように、`process-max-timer 50` を設定することも推奨されています。

関連情報

- [OSPF に関する技術サポート](#)
- [IP ルーティング テクノロジーに関するサポート ページ \(英語 \)](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)